

第2章 緑の現況と課題

1. 奄美市の概況

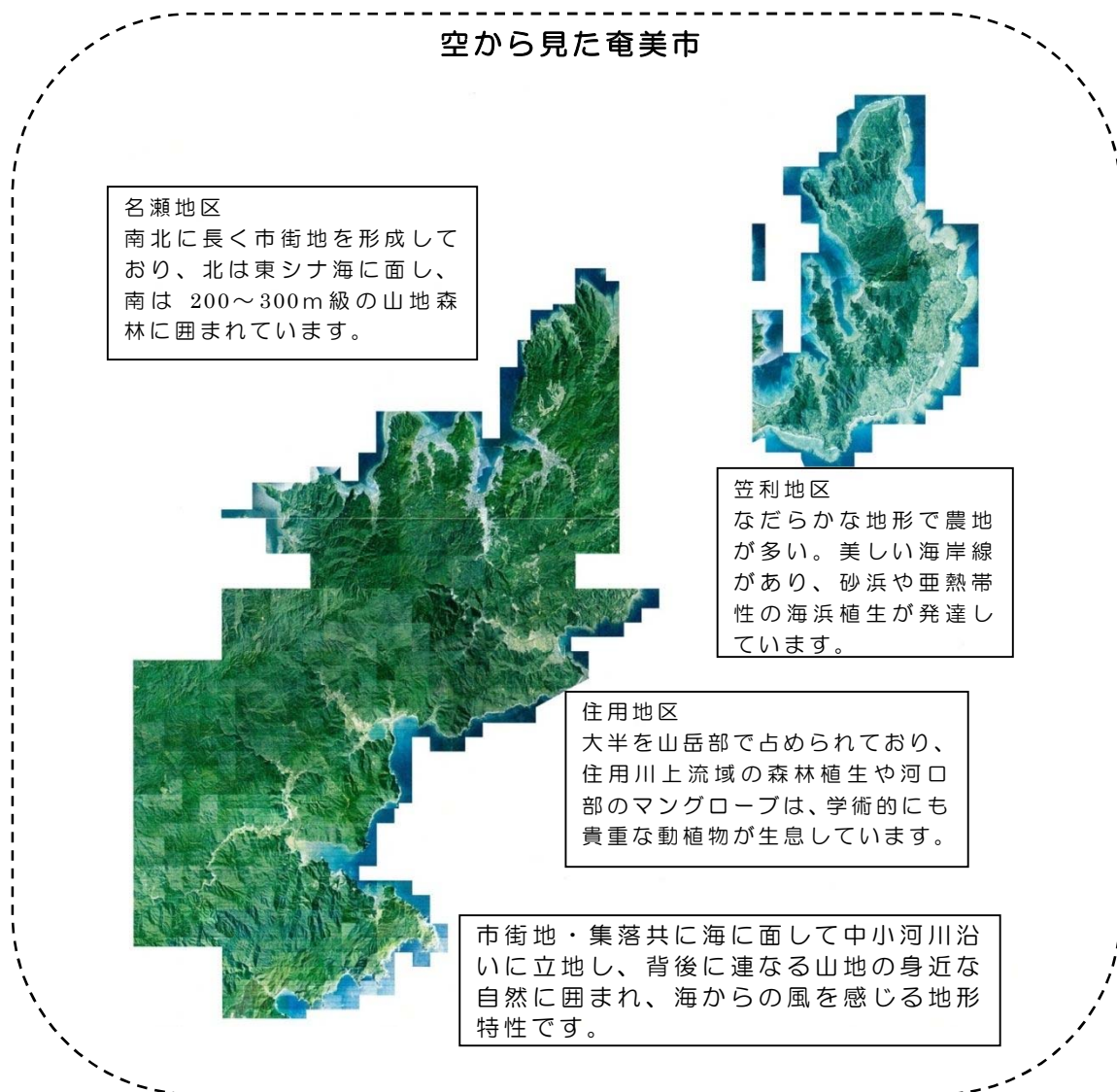
1) 自然的特性

① 地勢

本市は、鹿児島県本土から南西に約 380 km 下った海上にある奄美大島本島の北部に有り、北は東シナ海、南は太平洋に面しています。飛び地合併により市の北部約5分の1が切り離されて存在する形態となっています。

飛び地の北部は山の少ないなだらかな地形で、美しい海岸線を有しています。南部は大半を山岳部で占められており、学術的にも貴重な動植物が生息しています。

市内最高峰は金川岳(528m)で、主な河川は住用川(16.5 km)、役勝川(14.5 km)などです。



② 気候

奄美市を含む奄美群島の気候は、亜熱帯海洋性で温暖多雨であります。名瀬の気象状況の平均値（平成10年～平成20年）で見ると、気温は年平均が21.9℃で、鹿児島に比べ約3.6℃高く年変動が小さくなっています。

降水量は年平均が2950.1mmで、冬期間でも月降水量が150mmを超え、日本でも有数の多雨地帯となっています。

梅雨は本土よりも1ヶ月早く5月上旬に始まり、6月下旬に終わります。台風は主に6月から10月にかけて来襲し、季節風は夏と冬に顕著に現れ、夏は南東から南、冬は北西から北の風となります。

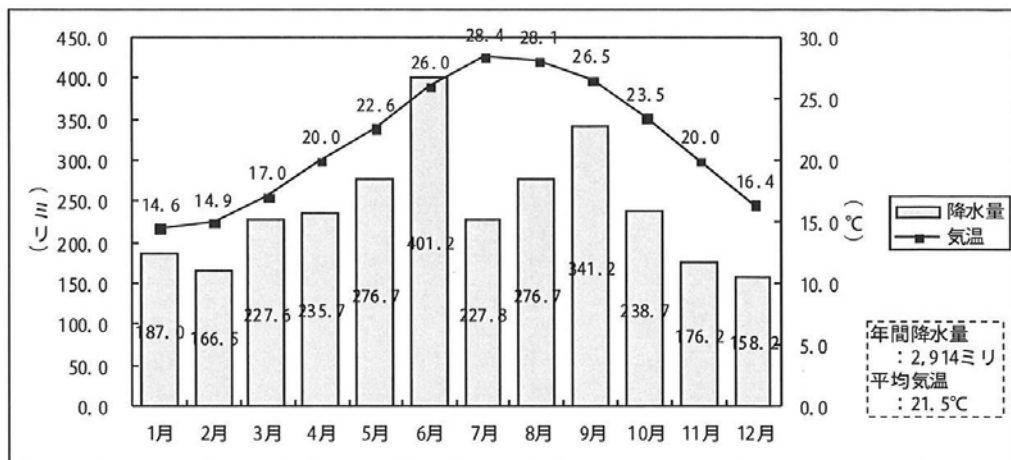
また、近年は一年を通して温暖である気候を活用したスポーツ合宿が増えています。

気象状況（平成10年～平成20年）

年次	平均気温	降水量 (mm)	風速 (m/s)	現象日数			地震（有感）
				快晴	曇天	降水 (1mm以上)	
平成10年	22.6	4403.5	2.3	3	190	183	37
11	21.8	3513.5	2.5	6	188	168	27
12	21.7	2633.0	2.6	6	188	153	33
13	21.9	2916.0	2.4	8	189	172	49
14	21.7	2658.5	2.6	5	187	168	35
15	22.1	2497.0	2.7	1	201	142	27
16	22.0	2912.0	2.6	6	167	162	26
17	21.5	2898.0	2.6	7	188	165	25
18	22.2	2490.5	2.5	11	180	157	22
19	22.0	2623.0	2.5	13	161	152	27
20	21.8	2906.0	2.4	8	183	154	13
平均	21.9	2950.1	2.5	7	184	162	30

※快晴…… 一般には、空に雲がほとんどない状態をいう

名瀬測候所の月別降水量・月別平均気温（1971～2000年の平年値）



出典：名瀬測候所HP

③ 自然特性（植生など）

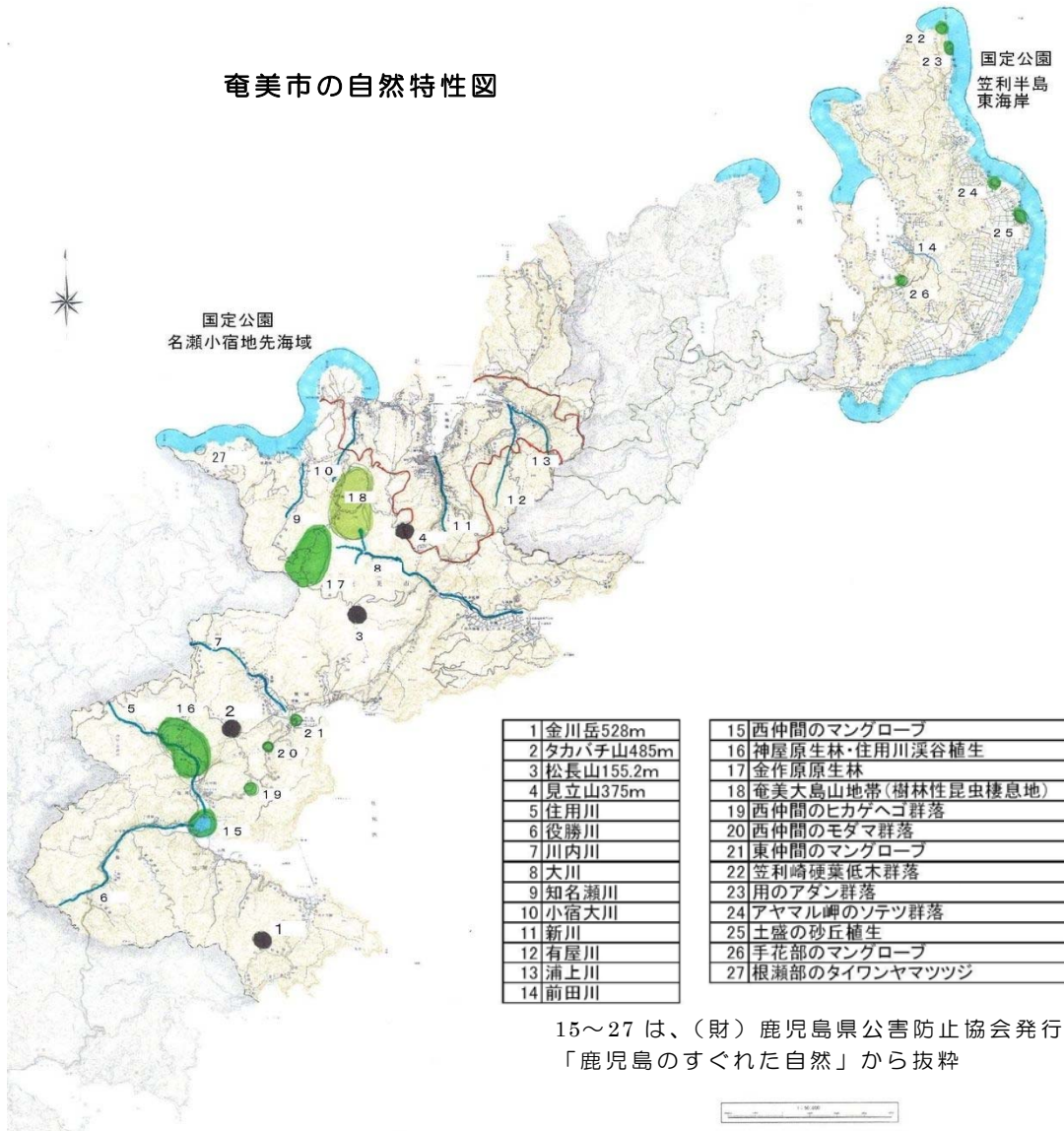
北部の笠利は低平ですが、中南部の名瀬・住用は山地地形で市街地や集落の周りに 200～400m を超える山地帯があります。

山地部の代表的な植生はスダジイを主とする亜熱帯性の常緑広葉樹林です。森林の伐採により原生的な自然植生が残っているのは、金作原、住用川上流域の神屋一体、川内川上流域だけになっていて、ヒカゲヘゴの群生やシイ・カシ類による亜熱帯性照葉樹林が見られ、貴重な生物相の生息地でもあります。その他はスダジイ林やリュウキュウマツ群落の二次林となっています。

河口の泥湿地の汽水域には、メヒルギやオヒルギから成るマングローブ林が各所に見られ、特に西仲間には広大な群落が発達しています。

沿岸の風衝地は硬葉性低木林やソテツ群落などの自然植生が発達しています。砂丘地はアダン群落、その背後にオオハマボウ群落、モクマオウ林などがあります。特に北部の海岸線沿いは、亜熱帯性の海浜植生が発達しています。

奄美市の自然特性図

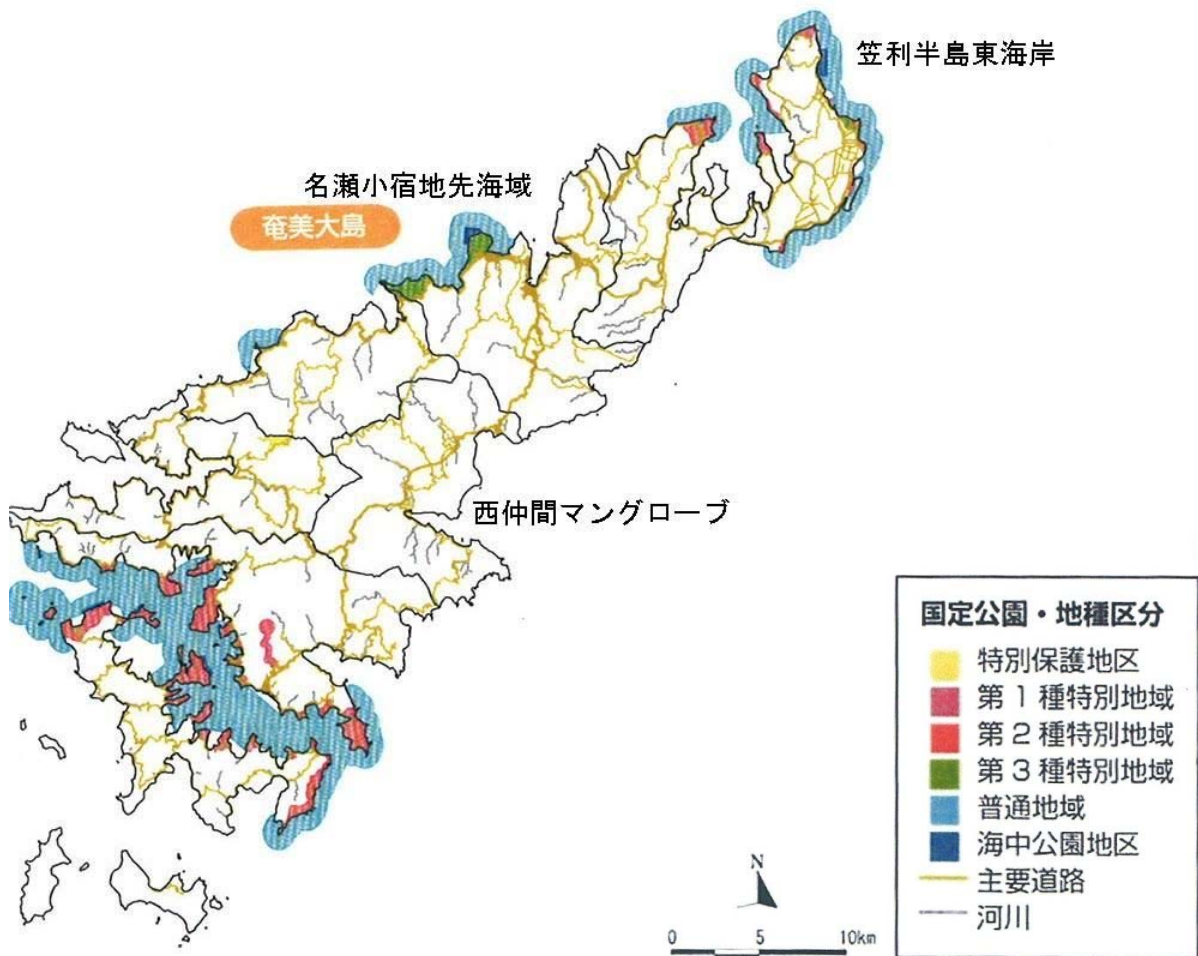


15～27 は、(財) 鹿児島県公害防止協会発行
「鹿児島のすぐれた自然」から抜粋

④ 国定公園

奄美市内の国定公園には、笠利半島東海岸や名瀬小宿先海域の普通地域と海中公園地区の他、その陸域に第2種～第3種の特別地域があります。また、特別保護地区として西仲間のマングローブがあります。

世界自然遺産登録に向け、現在の国定公園に加え内陸部も含めた国立公園化への取り組みが検討されています。



出典) 奄美群島広域事務組合資料

2) 社会的特性

① 人口

本市の人口は、県内 8 位で群島内の約 4 割を占めています。平成 21 年現在の世帯数・人口は次のとおりです。

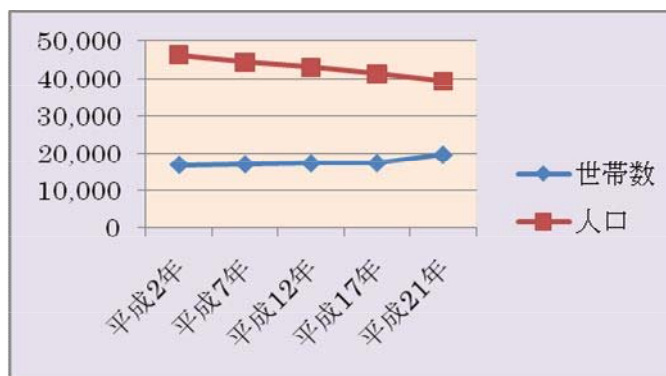
区 分	世帯数	人口		
		総数	男	女
市全体	23,571	47,473	22,212	25,261
名瀬地区	19,638	39,238	18,298	20,940
都市計画区域内	(17,955)	(36,101)	(16,847)	(19,254)
住用地区	838	1,608	780	888
笠利地区	3,095	6,567	3,134	3,433

人口の経年的推移は、昭和 60 年を境に減少に転じておりますが、奄美市総合計画においては平成 32 年の人口（常住人口＋活動人口）は 50,000 人を目標としております。

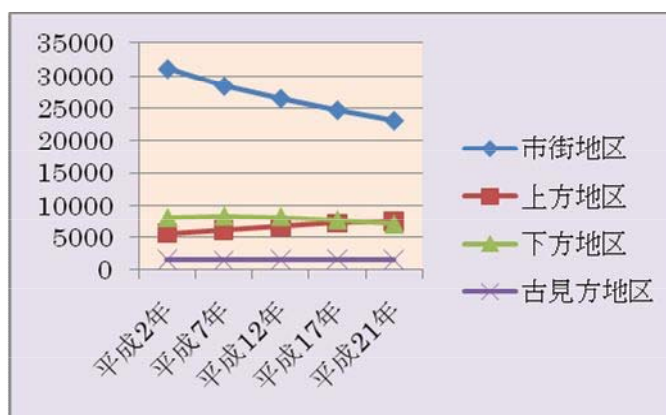
都市計画区域内の構造では、D I D 地区（人口集中地区）は市街地地区のみですが減少傾向にあります。一方、上方・下方地区は区画整理や公営住宅の整備により増加の傾向にあります。

本市人口の構造は、若年層の転出による人口減少、高齢化など他、中心市街地内の空洞化も見られます。

名瀬地区世帯数・
人口の推移



名瀬地区別人口の
推移



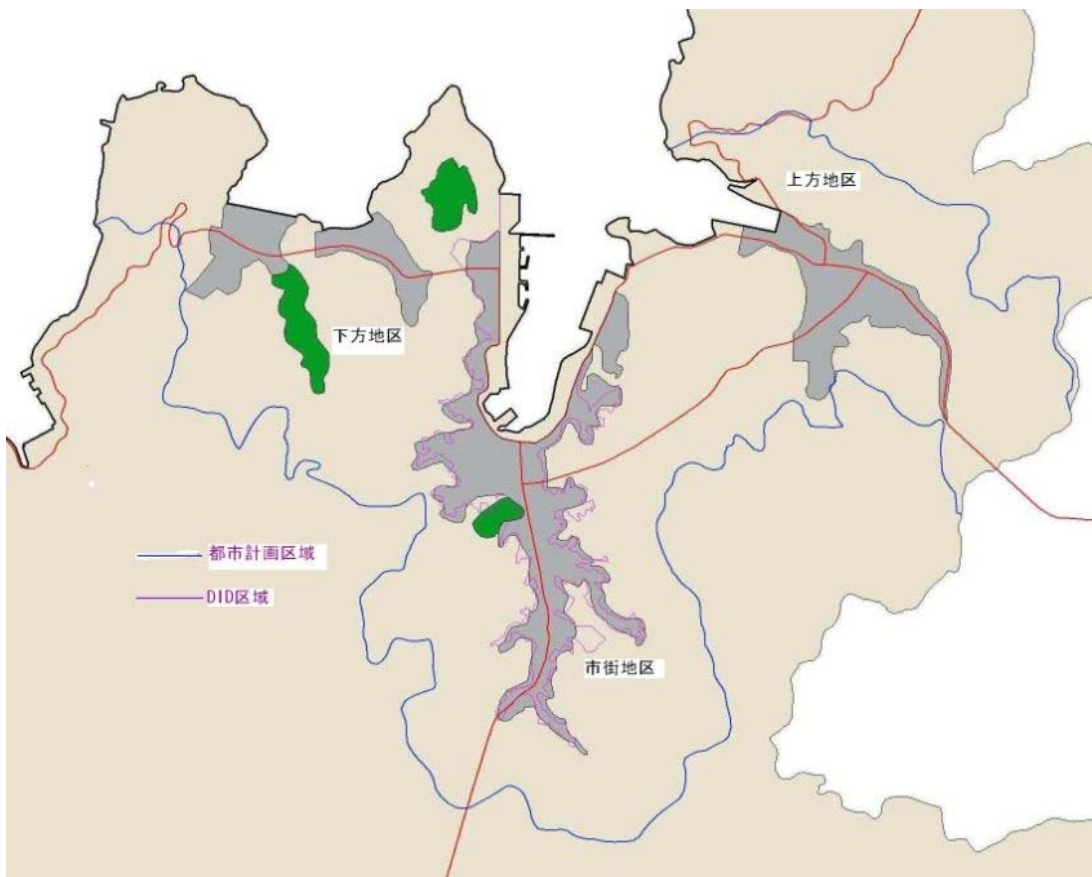
D I D 地域（2.68 km²）の推移は、次のとおりです。

年次	人口	人口密度
平成 12 年	23,879	8910.1
平成 17 年	22,079	8238.4
平成 21 年	20,944	7814.9

D I D 区域（人口集中地区）は、原則として人口密度が1 km² 当り 4,000 人以上の区域が隣接し、5,000 人以上を有する区域のことです。

本市では、全人口の 44%が市街地のD I D 区域に居住しています。また、本市のD I D 区域人口密度は、県内の平均値 5344.1 を大きく上回り、最も高い数値です。災害時の危険性の高い区域でもあります。

図 都市計画区域及びD I D 区域の範囲



②産業の動向

名瀬地区の平成 17 年の産業別の構成比は、第 3 次産業（76.8%）、第 2 次産業（18.3%）、第 1 次産業（4.9%）の順となっています。

経年的な推移では、第 2 次産業の減少傾向が著しくなっています。一方で第 3 次産業は増加傾向にあり、これは平成 18 年度の産業別総生産額にも顕著に表れています。

第 2 次産業の減少は、大島紬関連や公共事業の低迷によるものと思われます。第 3 次産業を担う観光関連のサービス業においては、交通基盤整備の充実に加え、本市の潜在的な自然的資源を活用した「緑」による景観形成等が望まれます。

表 産業別構成比の推移

産業別就業者数（15 歳以上）

産業分類	平成 2 年		平成 7 年		平成 12 年		平成 17 年	
	就業者数	構成比	就業者数	構成比	就業者数	構成比	就業者数	構成比
総数	23,478	100	23,208	100	22,086	100	21,691	100
第 1 次産業	1,567	6.7	1,491	6.4	1,062	4.8	1,056	4.9
第 2 次産業	7,196	30.6	5,968	25.7	4,904	22.2	3,968	18.3
第 3 次産業	14,707	62.7	15,737	67.9	16,103	73	16,655	76.8
その他	8	0	12	0.1	17	0.1	12	0.1

産業別市内総生産（平成 18 年度）

（単位：百万円、%）

区 分	奄 美 市	
	実 数	割 合
第 1 次 産 業	1,391	1.0
農 業	1,153	0.9
林 業 ・ 狩 猟 業	63	0.0
水 産 業	174	0.1
第 2 次 産 業	12,997	9.8
鉱 業	185	0.1
製 造 業	4,079	3.1
建 設 業	8,733	6.6
第 3 次 産 業	124,599	93.6
電 気 ・ ガ ス ・ 水 道 業	3,706	2.8
卸 売 ・ 小 売 業	12,707	9.5
金 融 ・ 保 険 業	9,453	7.1
不 動 産 業	13,071	9.8
運 輸 ・ 通 信 業	11,965	9.0
サ ー ビ ス 業	42,202	31.7
政府 ・ サービス生産者	26,243	19.7
対家計民間非営利サービス生産者	5,252	3.9
輸入品に課される税・関税	1,415	1.1
(控除)総資本形成に係る消費税	739	0.6
(控除)帰属利子	6,506	4.9
市 内 総 生 産	133,157	100.0

資料：市企画調整課

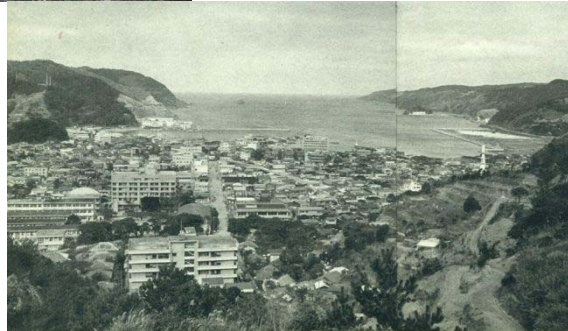
③名瀬市街地の変遷

奄美大島における集落構成は、古くから背後の杜を聖林として崇め、神の道・神の川を通じ、海の彼方の信仰の地（ネリア）から神を迎い入れるという「島建て村立て」の村落構造を形成してきました。名瀬市街地も名瀬湾・名瀬港を基軸にこのような伝統のもとに島建てのまちづくりを推進し、群島の中核都市を形成してきました。その変遷を写真画像で示します。



昭和 27 年日本復
帰前の名瀬市街
と名瀬港

昭和 40 年代の
名瀬市街と名瀬港



現在の名瀬港



現在の大熊漁港



現在の名瀬港と
周辺市街地

3) 上位計画・関連計画の確認

本計画に関係する上位計画・関連計画を確認し、その内容を次に示します。

奄美地域将来ビジョン（鹿児島県大島支庁）平成 22 年～	
基本理念・方針	人と自然が共生する癒し・活力・結いの島づくり
取組みの方向性	①安心・安全で活力のある生活空間づくり ・地理的条件に対応した災害に強い地域づくり ・奄美らしさを活かした景観づくりと活力空間の形成 ②地域資源を活用した産業の振興 ・亜熱帯性の気候と水を活かした生産性の高い奄美農業の展開 ・豊かな森林資源と新たな漁場開発等による持続可能な林業・水産業の振興 ③奄美群島の特色を生かした観光の振興 ・癒しあふれる観光の振興 ・日本一のおもてなしの島 奄美づくり ・観光資源の結集と戦略PR ④人と自然が共生する地域環境づくり ・世界自然遺産登録に向けた取組み ・自然との共生による地域の活性化と人材育成 ・自然と環境を重視した島づくり ⑤地域文化・歴史の保存・伝承と地域に根ざした人材育成 ・伝統的な文化・歴史の保存・伝承 ・地域に根ざした人材育成 ⑥群島内外の交流ネットワークの形成

奄美群島振興開発計画（鹿児島県）平成 21 年度～25 年度	
基本理念・目標	「人と自然が織りなす癒しの島・奄美の創造」による奄美群島の自立的発展と豊かな住民生活を実現する。
振興開発の方向	①地域の特性を生かした産業の展開 ②豊かな自然と個性的な文化を生かした観光の展開 ③世界自然遺産登録を視野に入れた人と自然が共生する地域づくり ④やすらぎとおいしいのある生活空間づくり ⑤群島内外との交流ネットワークの形成
奄美大島の方策	・スポーツ合宿の誘致促進を図るため、スポーツ施設の整備・充実を促進する。 ・名瀬港本港区については、ウォーターフロント再開発による都市機能の向上を図る。

奄美市総合計画 平成 23 年～	
基本理念	①健康で長寿を謳歌するまちづくり ②観光立島を目指した多様な産業連携のまちづくり ③自然に囲まれた快適な暮らしのまちづくり ④地域の中で教え、学ぶ教育・文化のまちづくり ⑤魅力ある地域づくりにむけて
将来像	自然・ひと・文化が共につくるきよらの郷(シマ) ～太陽(ティダ)の恵みのもとで、ゆったりとくらす人々が、 自然の声を伝えていくまち～

2. 緑地の現況

1) 緑の分布状況

本市は、総面積 30,652ha の内市街地や住宅地周りを農地、山地森林に囲まれており、名瀬地区の緑の比率は約 8 割、住用地区・笠利地区においては、約 9.5 割と緑被率が高く、全体としては自然性が高い地域です。

原生的な自然植生は、市域南部の中央山地帯の国有林に分布する他、沿岸部に風衝性の低木林やソテツ群生が分布しています。それ以外は伐採跡地が遷移した二次林となっています。

図 緑の分布図

